

陳韻雯 邱曉石

大阪大学大学院

**要旨：**格と意味役割 (theta role) は名詞句に存在する二つの要素である。日本語を代表とした多くの言語には格と意味役割の関係がより複雑で、同じ格を持っている二つの名詞句でも異なる意味役割があるのは一般的である。本研究におけるチャン語の栄紅方言には他の言語と異なる反例が呈示され、チャン語には内外項、格、意味役割その三つの中に一致関係が存在すると見つけられている。チャン語はチベット=ビルマ語族の活格言語として、他動詞の主語は非能格動詞の主語と同じ、活格を持って、対照的に他動詞の目的語は非対格動詞の主語と同じ、非活格を取るとなる。よって、本研究はチャン語には外項が意味役割により活格を獲得、そして内項がVにより非活格を取ると主張する。言い換えれば、チャン語には意味役割が外内項という位置特徴と結びつけた上で格と一致関係を立てることである。したがって、チャン語のデータから見ると、チャン語には意味役割、格、意味役割その三つが一致関係が存在する可能性があり、本質的に抽象構文木における特定位置であると考えられる。

### 1. はじめに

能格性があるチベット語におけるラサ方言では以下のように、自動詞文の主語には絶対格と能格を付与されると見つけられた。

- (1)      náä      chin      ko  
           1SG      go        AUX  
           'I shall go.' rather than 'I go.'

チベット=ビルマ語族に属するチャン語には最近の調査からみると、自動詞文に能格分裂現象があり、非能格動詞文の主語しか動作主標識/wu/で標記されると発見された。

- (2)      a.        χumtʃi(-wu)      khumtʃi(-\*wu)      zə -dzə-u.  
           χumtʃi(-AGT)      khumtʃi(-\*AGT)      DIR-hit-postfix  
           χumtʃi hits khumtʃi. '
- b.        the:-wu sei  
           3SG-AGT run/walk  
           'S/he is running.'
- c.        \*the-wu die-ʒe  
           3SG-AGT              DIR-die  
           'S/he died.'

上記により、チャン語は活格言語として外項しか能格/wu/を付与されないと仮定する。

## 2. 背景

### 2.1 格配列

Dixon (1994) は文の主要項を三種類に区別する。それは他動詞文の主語 A(gent)と目的語 P(atient)、自動詞文の主語 S(subject)である。格配列とは三種類の項における格により、同じパターンを持つ項をグループして、それで異なる配列を作ることである。格標示のタイプにより、自然言語を異なる言語型に分けて、その中に普遍的なのは対格型で、A と S は同じパターンが示され、P は異なるパターンである。

- (3) a. **S**  
**She** has arrived.
- b. **A**            P  
**She** praised him.

対照的に、能格型言語では S と P は同じパターンが示され、A は異なるパターンである。

- (4) a. **S**  
**Martin-Ø**            etorri            da  
**Martin-ABS**        arrive            AUX  
'Martin has arrived.'
- b. A                    **P**  
Martin-ek            **Diego-Ø**            ikusi        du  
Martin-ERG         **Diego-ABS**        see        AUX  
'Martin has seen Diego.'

能格型に関連する言語型は「活格型」で、動作（・非動作）格型（角田 1991）と split-s system（Dixon 1994）とも呼ばれる。この型を持っている言語は自動詞文の唯一項が二つのタイプに分けられる。一つのタイプは他動詞文の主語と同じ格を持つ、(SA)と示される。もう一つのは他動詞文の目的語と同じ格を持つ、(SP)と示される。前者の自動詞文は非能格動詞文 (unergative verb) で、後者のは非対格動詞文 (unaccusative verb) である。チャン語の調査から見ると、チャン語における活格の特徴はバスク語と同じだが、異なるのはチャン語の主要項がただ A と P だけに分けることであり、詳しくはセクション 3 で紹介される。

- (5) a. **A** **P**  
**emakume-a-k** **emakume-a** ikusi du.  
**woman-DET-ERG** **woman-DET** seen has  
 ‘The woman saw the woman.’
- b. **S(p)**  
**emakume-a** erori da.  
**woman-DET** fallen is  
 ‘The woman has fallen.’
- c. **S(a)**  
**emakume-a-k** barre egin du.  
**woman-DET-ERG** laugh done has  
 ‘The woman has laughed’

(Laka 1993)

## 2.2 チャン語の基本構造

チャン語（羌語、Qiang language）は四川省西部、アバ州蔵族チャン族自治州に暮らすチャン族（チャン語を話せる蔵族もいる）が使っている少数民族言語である。チャン族は大きく南部方言と北方方言に区別され、お互いには大きな違いがある。北方方言の文法特徴は主に、多様な接置詞を通じて反映されているが、南方方言は異なる音調で意味を伝え、北方方言より接置詞が少ないとなる。今回の研究対象はチャン語の榮紅方言で、北方方言の一つである。説明のために、以下はチャン語と呼ぶ。基本の文法構造について、チャン語は SOV の語順で、主語-述語一致関係（subject-predicate agreement）が存在する。チャン語には通用文字がない。

- (6) a. qa the: ləyz e-pen de-l-a.  
 1SG 3SG book one-CL DIR-give-1SG  
 ‘I gave him a book.’
- b. ʔu pautʂə tse-n  
 2SG newspaper look at/read-2SG  
 ‘you’re reading the newspaper.’
- c. the: fa χuəla-Ø  
 3SG clothes wash:3SG  
 ‘He is washing clothes.’
- d. Khuəɬ-le: die-ʂe  
 puppy-DEF:CL DIR-die  
 ‘The puppy died.’
- e. zawa fio-ylu.  
 stone DIR-roll  
 ‘The stone roll down’ (L&H 2003: 77,122,143)

そしてチャン語には時制 (tense) が存在しない。完成相 (perfective aspect) は趨向接頭語 (directional prefix) という接置詞で表示される。相と趨向接頭語の関係はより複雑で、未来の研究課題となる。

- (7) a. Nəs qa ə-qa-lai the: stuaha tɕhə.  
 yesterday 1SG DIR-go:1SG-DEF:one:time 3SG food/rice eat  
 ‘Yesterday when I entered the room, s/he was eating.’
- b. qa/?ũ/mə u-su-a/-n/-ø  
 1SG/2SG/older.brother DIR-study-1SG/2SG/3SG  
 ‘I/you/big brother finished studying.’
- c. qa/?ũ/mə su-a/-n/-ø  
 1SG/2SG/older.brother study-1SG/2SG/3SG  
 ‘I/you/big brother am/are/is studying.’

### 3. データと分析

#### 3.1 チャン語の格配列

以下のように、他動詞の主語にあたる項に出現できる標識は話題標識以外に/wu/しかない。これにより筆者たちは/wu/が格標識であると主張する。

以下の例では他動詞文の主語が/wu/格を持つことができるが、他動詞句の目的語および自動詞の主語はできない。これらの例では、チャン語の単文は能格配列のように見える。

- (8) a. χumtʃi-wu khumtʃi-\*wu zə -dzə -u.  
 χumtʃi-AGT khumtʃi-\*AGT DIR-hit-postfix  
 ‘χumtʃi hit khumtʃi.’
- b. χumtʃi-\*wu die-ʒe  
 χumtʃi-\*AGT DIR-die  
 ‘χumtʃi hit died.’

しかし以上の一般化を違反する例が大量に存在している。以下の自動詞文では、(b)例のような非対格動詞では主語に/wu/があると非文となるが、(a)例のような非能格動詞の場合、主語には/wu/があってもなくても正しい文であり、意味も変わらない。つまり、/wu/は(b)例の主語には出現できないが、(a)例の主語には出現でき、かつ発音は省略できる。

- (9) a. the:(-wu) sei b. Khuaxl-le:\*(-wu) die-ʒe  
 3SG-AGT walk/run Puppy-DEF:CL-AGT DIR-die  
 ‘S/he is running.’ ‘The puppy died.’

これにより、筆者たちはチャン語が Dixon(1994)が指摘した Split-S 型の活格言語の一つであり、前述のバスケ語と類似なモデルを持っていると主張する。

活格言語も能格言語のように分裂能格性が見られる(GÛR GD'YEM/PENG, 2023)。すなわち特定な環



#### 4. まとめ

本研究はチャン語栄紅方言の単文において項の分布を調査した。チャン語では外項は常に格標識/wu/が付与されるが、内項では不可能である。この規則は自動詞と他動詞の差異、項の有生性の差異、そして相の差異などに影響されない。筆者たちはこれによりチャン語は活格言語でありながら、一般的な活格言語と違い、S Sa Sp P の対立ではなく、A と P のみが存在すると主張する。

本研究はチャン語の単文における格付与モデルを提案した。外項の活格は内在格として主題役割と共に付与される。そして、内項の非活格はVにより付与され、実質的には不完全な対格である。

チャン語のテータは、この言語では外/内項、主題役割と格とは三位一体のような関係があると示唆している。このような三位一体の関係は筆者たち今後の研究課題でもある。

#### グロスリスト

ABS	絶対格	DIR	趨向接頭語 (directional prefix)
AGT	動作主標識	ERG	能格
AUX	助詞	LOC	場所標識
CL	助数詞	SG	人称単数
DEF	確定標識 (definite marker)	U	非動作主標識(Non-actor marking)
DET	限定詞		

#### 参考文献

- Chomsky, Noam. (1986b). *Knowledge of Language*, New York: Praeger Publishers.
- Dixon, Robert Malcolm. (1994). *Ergativity*. Cambridge University Press.
- Gur Gd'yem, Mjesd'alpa/Peng, Zitong. (2023). ビジ語の分裂活格性. 日本言語学会第 167 回大会.
- Halle, Morris and Alec Marantz. (1993). *Distributed Morphology and the Pieces of Inflection*. In Kenneth Hale and Samuel Jay Keyser (eds.) *The View from Building 20*, pp.111-176. Cambridge, MA: MIT Press.
- LaPolla, R. J., & Huang, C. (2003). *A grammar of Qiang: With annotated texts and glossary*. Mouton de Gruyter.
- Legate, Julie Anne. (2012) *Types of Ergativity*. *Lingua* 122(3):pp.181-191
- Woolford, Ellen. (2006). *Lexical Case, Inherent Case, and Argument Structure*. *Linguistic Inquiry* 37:pp.111-130
- Sheehan, Michelle. (2017). *Prameterizing Ergativity: An Inherent Case Approach*. In Jessica Coon, Diane Massam, and Lisa deMena Travis. (eds.). *The oxford Handbook of Ergativity*, pp.59-85. Oxford: Oxford University Press.
- 角田太作(1991)『世界の言語と日本語—言語類型論から見た日本語』くろしお出版